

2021

令和3年度「学部教育充実予算」

体育・スポーツの エキスパート育成プログラム 事業報告書

- アスリート・コーチ
- アスリートサポート
- 保健体育教員
- 健康運動指導者
- 生涯スポーツ教育者
- キャリア教育

福岡大学スポーツ科学部

令和3年度「学部教育充実予算」

体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

事業報告書

目次

挨拶	01
プログラムについて	02
アスリート・コーチ育成プログラム	05
アスリートサポートプログラム	09
保健体育教員採用試験対策プログラム	11
健康運動指導者試験対策プログラム	13
キャリア教育実践プログラム	14
令和3年度 成果一覧	17

挨拶

スポーツ科学部長 米沢 利広

スポーツ科学部では、平成 23 年度からスタートした本学企画の「魅力ある学士課程教育支援プログラム」に申請し、2 年間に亘り 820 万円の支援を受けることができました。その内容は、平成 22 年入学生からスタートさせた本学部の新カリキュラムにタイアップしたものでした。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先を視野に入れた科目履修ができるよう方向付けする(コース科目推奨群の設定)とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。その新カリキュラムがこのプログラムに非常にマッチしたものであると考え、「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と称して申請し、採択され、これまで多くの成果を得ることができました。

平成 25 年度からは「教育推進経費」として 3 年間で 1,174 万円、平成 28 年度からは「暫定的教育予算」として 2 年間で 879 万円の支援を受け、同様のプログラムを実施してきました。平成 30 年度からは「学部教育充実費」として 260 万円に減額されたものの、プログラム内容を縮小して実施してきました。そして、平成 31 年度および令和 2 年度は 430 万円に増額され、以前と同様なプログラムを実施することができ、プログラムの定着とコース色が色濃く出るような成果に繋がってきました。しかしながら、令和 2 年度及び令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、いくつかのプログラムが実施できず、学生教育に十分繋げることができませんでした。

本プログラムは、「アスリート・コーチ育成プログラム」「アスリートサポートプログラム」「保健体育教員採用試験対策プログラム」「健康運動指導士試験対策プログラム」「生涯スポーツ教育実践プログラム」「キャリア教育プログラム」の 6 つのプログラムで構成されています。スポーツ科学科 4 コースと健康運動科学科 3 コースにマッチングした内容であると同時に、授業(単位)での内容と深く関わり、スポーツ科学部の教育と魅力づくりに中心的な役割を果たすようになってきました。

令和 3 年度は、健康運動実践指導者 2 名と健康運動指導士 5 名の合格、そして保健体育教員の現役合格者 8 名など、成果が現われていますが、グローバル人材育成にも寄与している海外研修が行えなかったことは大変残念です。また、2 年次生対象の「ステップアップセミナー」では、1 部オンデマンド形式の授業となりましたが、株式会社マイナビと連携して行われた「キャリア教育プログラム」が、UNIVAS AWARDS 2021-2022 の「キャリア支援に関する優秀取組賞」を受賞いたしました。令和 3 年度に課外教育活動で優秀な成績を収め、スポーツ賞を受賞したのは、7 団体および 11 名でした。各プログラムの詳細及び成果等については、各プログラム責任者が報告していますのでご一読ください。

令和元年に学部創設 50 周年を迎え、平成 2 年度及び 3 年度は、さらなる飛躍を目指してスタートする年でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、すべてのプログラムを実施することができませんでした。次年度は、新型コロナウイルス感染症が終息し、すべてのプログラムが実施されることで、スポーツ科学部の教育に貢献することを切に願っています。最後になりますが、本プログラムを実践するにあたり、大学のご理解とご支援並びに学部教育に関わる多くの関係者のご尽力に厚くお礼申し上げます。

プログラムについて

コーディネーター 今村 律子

スポーツ科学部では、平成 22 年度入学生からカリキュラムの改編に伴い、福岡大学の「魅力ある学士課程教育支援プログラム（体育・スポーツのエキスパート育成プログラム）」とタイアップしてさまざまなプログラムを実行してきました。その後、カリキュラムの完成年度（平成 25 年度）にその効果を検証した結果、大きな効果が認められました。平成 25 年度以降は、「教育推進経費」により本プログラムを継続し、平成 28 年度からは、減額されたものの「暫定的教育予算」によって継続してきました。そして、平成 30 年度からは「学部教育充実予算」として同様のプログラムを実施しました。このプログラムは、現カリキュラムの特徴である推奨コースと連携をとるプログラムが多く、教育的な効果も高くなっており、スポーツ科学部の魅力をつくり出す重要なプログラムとなっています。

現カリキュラムは、1 年次生の学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向づけをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、本学部の現カリキュラムと非常にマッチしたものであり、これまで多くの成果を得ることができました。平成 30 年度においても「学部教育充実予算」で申請し、これまでと同様のプログラムを実施してまいりました。それぞれのプログラムでは、コースの特性により、期待以上の成果が上がってきました。

本年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大のため、一部制約の残る中、各コースで創意を加え進められました。まず、アスリート・コーチ育成プログラムでは、前期開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」は、講師招聘時のみ感染対策を行いながら対面で行われました。昨年に引き続き、ウィルチェアラグビー日本代表の官野一彦氏、元バドミントン日本代表で九州出身でもある森かおり氏、水泳 200m バタフライでオリンピックメダリストの星奈津美氏、そして、陸上競技日本代表チームトレーナーの村上博之氏と、バラエティに富むトップレベルの講師陣を迎え、多くの受講生たちは刺激を受けたようでした。このプログラムは、3 年次生対象の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」の単位とも連動させていますが、残念ながら本年度は全ての国内研修が中止となりました。

アスリートサポートプログラムのスポーツトレーナーサポートでは、トレーナーとして活躍されている加藤裕氏と松葉開氏を招聘し、オンライン形式でセミナーを開催しました。多様な年齢層やレベルでの対象者を相手に、スポーツ現場で活動しているトレーナーの話は、学生にとってアスリートをサポートする現実的なビジョンが見えてくる良い機会となりました。

保健体育体教員採用試験対策プログラムでは、4 年次生の保健体育教員コースの学生 33 名が「保健体育教職演習Ⅱ」を受講し、3 年次生の同コースの学生 33 名が「保健体育教職演習Ⅰ」を受講しています。本年度の講義は対面形式で実施し、各授業内で現役教師を招聘しました。また、対面可能な時期に 4 年生対象の 1 次試験対策講座およびグループワークや模擬授業などの 2 次試験対策講座も行いました。その結果、17 名が 1 次試験を合格し、そのうち 2 次試験は 8 名の現役学生が合格しました。昨年度に続き、本年度の採用試験は、各自自治体で試験形式の大幅な変更等の自治体もありましたが、そのような中でも結果を得られた年であったと思います。

健康運動指導士試験対策プログラムでは、筆記試験対策は対面形式とオンライン形式を併用しながら実施しました。4年次生の健康運動指導者コースの学生を対象に、健康運動指導士の試験対策の「健康運動指導演習Ⅱ」を行い、5名（7名受験）名の学生が合格しました。「健康運動指導演習Ⅰ」の授業の中で、実技試験対策講座講（外部の講師）と筆記試験対策が行われ、健康運動実践指導者試験に8名（11名受験）の学生が合格しました。

生涯スポーツ教育実践プログラムでは、学外イベント・プログラムへ学生を派遣するといった計画を立てられていましたが、様々なイベント・プログラムの中止が相次いだことや、移動の自粛要請等の理由から、予定のプログラムをいずれも実施できませんでした。

キャリア教育プログラムとして例年実施しているステップアップセミナーでは、教室を分けてリアルタイム配信で実施することができました。内容については、現任教員やミズノ株式会社などで活躍されている学部卒業生など、多方面で活躍している講師からのアプローチにより、受講生に将来を意識させる動機づけの充実が図られました。さらに、今年度は、昨年に引き続き大学スポーツ協会（UNIVAS）と正課内授業連携で、受講生のキャリア支援ならびに、大学内における UNIVAS 運用両面の充実に向けた取り組みが行われました。この取組は全国に先駆けて行われており、「キャリア支援に関する優秀取組賞」を受賞しました。

本年度は、制限下での状況を活かし、より充実した教育内容に進化させられたのではないかと感じています。各担当者が多様な学びを提供し、工夫した成果が得られたのではないのでしょうか。この一年の取組みの進化は、当学部のオリジナルプログラムの新しい形としても、ポジティブにとらえることができたとおもわれます。

プログラムスタッフ

◇統括 米沢利広

◇アスリート・コーチ育成プログラム

乾 眞寛 米沢利広 片峯 隆 村上 純

田口晴康 柿本真弓 小牟礼育夫

田場昭一郎 坂本道人 村川 誠

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

柿山哲治 梅田保人 今村律子

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

霜島広樹 藤井雅人 築山泰典

◇コーディネーター 今村律子

◇アスリートサポートプログラム

布目寛幸 川中健太郎 下園博信 西田 智

◇健康運動指導者試験対策プログラム

道下竜馬 山口幸生 川中健太郎

◇キャリア教育プログラム

坂本道人 野口安忠 柿本真弓 川上翔太郎

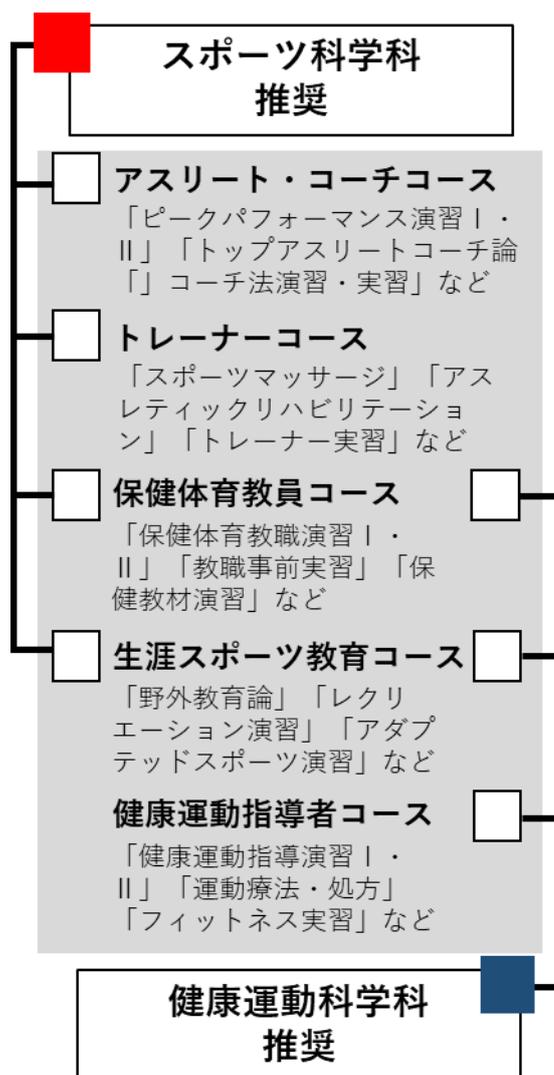
◇会計 福 由紀

プログラム概要

目標と特徴

スポーツ科学部では、平成 22 年度からスタートした現カリキュラムに向けて様々なプログラムを準備して実践してきた。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものである。アスリート・コーチコースでは、平成 20 年度から 3 年間継続した「トップアスリート強化・支援のための実践プログラム」を一部継続しながら、全国大会上位入賞者および団体（チーム）のさらなる増加を、保健体育教員コースでは、3 年次からの人数制限科目の設定等により、教員採用試験の現役合格者あるいは卒後早期合格者の増加を、健康運動指導者コースでも 3 年次からの専門家養成教育に重点を置くことにより、健康運動実践指導者および健康運動指導士の合格者の増加を、そしてトレーナーコースと生涯スポーツ教育コースでは、アスティックトレーナーやトレーニング指導者、野外教育・レクリエーション指導者などのエキスパート育成を目指している。

アスリート・コーチコースの学生には、国内外で活躍する指導者や選手を招聘し、継続的な動機づけと明確な目標設定を行わせ、より高度な競技レベルへのチャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる。さらに、国内外での研修を奨励し、国際的視野で活躍する人材を育成する。また、アスリートサポートプログラムでは、栄養サポート、メンタルサポート、フィジカル&バイオメカニクスサポートなどにより、サポートのエキスパート育成が期待できる。保健体育教員コースの学生には、教員採用試験突破に向けた講習会と勉強会を、健康運動指導者コースの学生には、健康運動実践指導者および健康運動指導士の試験合格に向けた講習会と勉強会を設定することで、意欲ある学生への支援が可能となる。トレーナーコースや生涯スポーツ教育コースの学生には、実践教育の場を供給できる点で効果が期待できる。また、2 年次生の開講科目「ステップアップセミナー」では、職業意識を高めるために、様々な職種の講師を招聘している。



アスリート・コーチ育成プログラム

担当責任者 乾 眞寛

2011年度から始まった「体育・スポーツのエキスパートの育成プログラム」は、11年目を終えた。2008年度に開始した「トップアスリート強化支援のための実践教育プログラム」3ヶ年を合わせると、計14年間継続されてきたことになる。

プログラム当初の目標は、競技面での実績を高めることであり、世界的スケールで活躍する一流アスリートやコーチを本学にお招きし、その貴重な経験談を定期的に聞ける場を現役学部生に提供することであった。そして、日本トップレベルを目指す志の高い学生を海外研修に派遣し、九州内や国内では経験できない環境に身をおくことで、高いモチベーションや挑戦する心を刺激することであった。

この継続した取り組みの成果により、日本国内のトップレベルで活躍する福大生アスリートの数は、年々飛躍的に増加し、全国ベスト8以上の入賞者または国体、チームは、プログラム開始前に比べて格段に増えている。また本年度は、女子柔道部が全国大会で準優勝、サッカー部が夏の総理大臣杯優勝チームを破りベスト8へ進出を果たしている。

2年次生に開講された「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」では、授業内に計4回、外部講師をお招きし、トップアスリートから直接に経験談や苦労話、失敗談をお聞きする機会を設けている。昨年は新型コロナウイルスの影響により対面での実施ができなかったが、今年は講師をお招きする回においては対面での実施を行うことができた。昨年まで、オンラインでの授業のみであった2年生には大きな刺激となり、関心度が強く、講義への出席状況も良好で、授業後に提出する課題レポートの感想文からも学生各自の心に大きく響くものがあったことがわかる。

3年次開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」は、国内外での極めてハイレベルな実践活動をしている場所に出向き、研修計画－参加－報告といった実績が単位化されるという学部特性が反映された科目であるが、本年度もコロナ禍の影響から、国内外ともに研修は中止となった。これまで行ってきた当研修は、学生たちにとって、国内トップクラスの環境へ挑戦の場を広げるきっかけとなっている。その成果は、研修終了後に現役学生たちへとフィードバックされ、ハイレベルな環境で実践的なトレーニングを経験することが、いかに人を成長させるか？ということをもつて実証してくれている。研修を終えた学生は、チームの主力選手として活躍するだけでなく、卒業後には、プロスポーツ、実業団リーグ、全日本選手権など、活躍のステージを上げ、スケールアップした姿を見せてくれている。この研修が安心して再開されることを願うばかりである。

これからも「九州の雄」にあまんじることなく、目標水準を高く保ち、グローバルなスケールで活躍できる人間性豊かなトップアスリートを育成することが、本プログラムの使命であると考えている。

プログラムを実施するにあたり、ご支援、ご協力いただいたミズノ株式会社様、その他の皆様に、心より御礼申し上げます。「福岡発、日本一経由、2024パリ五輪、世界行!!」これからも、福大生アスリートの更なる活躍に、熱いご声援を宜しくお願い申し上げます。

特別講演会 ゲスト講師

官野 一彦 氏 ウィルチェアラグビー日本代表

1981年8月1日 千葉県袖ヶ浦市生まれ 木更津総合高校卒

リオデジャネイロ パラリンピック 銅メダリスト

現在はパラサイクリングで世界も目指す傍ら、実業家として活躍中

2012年 ロンドンパラリンピック 4位

2015年 アジアオセアニアゾーン選手権 優勝 Best Player 賞受賞

2016年 リオデジャネイロパラリンピック 銅メダル

2017年 アジアオセアニアゾーン選手権 2位

2018年 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会 優勝
世界選手権 金メダル

(2021年6月9日開催)

森 かおり 氏 元バドミントン日本代表

九州国際大学附属高等学校 三洋電機

2000年 全日本総合選手権

シングルス準優勝、女子ダブルスベスト8

2001年 全日本総合選手権

シングルス優勝、女子ダブルスベスト8

2004年 アテネオリンピック

シングルスベスト16

2005年 アジア選手権大会 シングルス準優勝

2006年 アジア選手権大会 シングルス準優勝

(2021年6月16日開催)

星 奈津美 氏 水泳選手 (バタフライ 200m)

1990年8月21日埼玉県越谷市生まれ 春日部享栄高校～早稲田大学卒

大学卒業後、スウィン大教mにて現役を続ける 2014年よりミズノ株式会社へ入社しミズノスイムチーム所属となり、2016年に国民体育大会をもって現役引退 現在、ミズノスイムチーム アシスタントコーチ

- 2006年 高校1年 インターハイ、200m バタフライで初めての全国大会優勝
- 2007年 ジュニアパンパシフィック大会にて初の日本代表入り
- 2008年 北京オリンピック 200m バタフライ 10位
- 2010年 パンパシフィック選手権 200m バタフライ 5位
- 2011年 国際大会代表派遣選考会 200m バタフライ 優勝 日本新記録樹立(2:06.05)
世界水泳選手権 200m バタフライ 4位 日本記録更新(2:05.91)
- 2012年 ロンドンオリンピック代表選考会 200m バタフライ優勝 日本新記録更新(2:04.69)
ロンドンオリンピック 200m バタフライ 銅メダル獲得
日本学生選手権 200m バタフライ 4連覇達成
- 2013年 世界水泳選手権 200m バタフライ 4位
- 2014年 パンパシフィック選手権 200m バタフライ準優勝
アジア大会 100m バタフライ 4位 200m バタフライ準優勝
- 2015年 世界水泳選手権 200m バタフライ優勝
・日本競泳女子選手では史上初の金メダル
- 2016年 日本選手権 200m バタフライ 7連覇
リオデジャネイロオリンピック 200m バタフライ 銅メダル獲得
・2大会連続メダル獲得は、日本人女子3人目
-

(2021年6月23日開催)

村上 博之 氏 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー

1979年大阪府出身 早稲田大学人間科学部スポーツ科学科卒業 同大学大学院スポーツ科学研究科修了

陸上競技日本代表チームトレーナー歴

リオデジャネイロオリンピック競技大会 2016年

ユニバーシアード競技大会 2007年

アジア競技大会 2014年

世界陸上競技選手権大会 2011年、2013年、2015年

アジア陸上競技選手権大会 2009年、2011年、2013年、2015年

(2021年6月30日開催)

受講生レポート

(官野さんの講話より)

「官野さんの講演を聞き常に前向きに取り組むことの大切さを学びました。困難に出会った時に前向きに向き合うことが成功の鍵だという言葉を受け、私も怪我を治し頑張ろうと思えました。」

「ウィルチェアラグビー引退後も新たな種目に取り組む向上心に感銘を受けました。常に目標を高く持ち取り組む姿勢を真似したいと思いました。」

(森さんの講話より)

「高校生から日本のトップとして戦ってきた森さんの感じた世界との差について聞くことができとても参考になりました。私も常に世界のトップを意識してサッカーに取り組んでいきたいと思えました。」

「世界大会やオリンピックで力を発揮することの難しさについて話を聞くことができ参考になりました。競技力とともに自分の力を発揮するための適応能力の必要性について感じることができました。」



(星さんの講話より)

「星さんの講演を聞いて、目標に向かって努力できる身体が当たり前にあることに感謝することと一日の最後に後悔を残さないようにその日の状態での全力を尽くすことの2つをこれから毎日欠かさず実践しようと思いました」

「今回、星さんに出会えたことが私にとってのターニングポイントになったと思います。4年後パリオリンピックに出場するという目標を達成するためには今のままではダメだと感じました。たくさんの人に支えられながら競技ができることに感謝し、こさき自分がどうありたいかのビジョンを常に明確に持ち続けていかならなければならないと感じました。」

「“できることを考え自発的に取り組む”という星さんの言葉は強くなるため、勝つためには必ず必要なことなので私も当たり前これを実践して行きたいと思います。」

(村上さんの講話より)

「これまで3回は選手による講演のお話だったが、今回はサポート側のお話でトレーナーを目指している私にとっては最も有意義な公演だった。常に勉強する姿勢を持ち続け、自ら学びに行く姿勢の重要性を今回の村上さんの講演で感じた。」

「村上さんのお話を聞くまでトレーナーの仕事についてあまり知らなかったが、スポーツには欠かせない存在であり、競技者とトレーナーの二人三脚でさまざまな良い結果につながっていることがわかった。」



アスリートサポートプログラム

担当者 西田 智

本学部では、主にスポーツトレーナーコースを選択している学生を対象とした「スポーツトレーナー実習」という科目を開講している。毎年15人前後の学生がスポーツトレーナー実習を履修し、実技形式の授業を通して、より実践的な知識や技能を学んでいる。しかしながら、本学部スポーツトレーナーコースがトレーナーを志す学生にとって有意義な学びを得られる環境となるうえでは、学外との接点が不足していると感じている。そこで、昨年度より、学生の意欲向上ならびに本物を知る機会の提供を目的にスポーツ現場でトレーナーとして活躍されている方の生の声を聞くオンラインセミナーの機会を設けており、本年度もその取り組みを継続した。学生達は、本セミナーを通して、多様なトレーナーとしての働き方や実際のスポーツ現場でトレーナーに求められることを知ることができたと感じる。本セミナーで得た学びが、学生達が今後トレーナーを目指していくうえでの指針となることを期待したい。

<オンラインセミナー>

日時：2021年11月15日（月）

講師①：加藤 裕 氏

ジェフユナイテッド千葉・市原アカデミーフィジカルコーチ
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、NSCA-CSCS

00:19:58 -01:02:17

自分の価値 = 存在する意味

- ・フィジカルという分野における専門性
- ・「なぜ」に対するアンサーを持つ

そのために…

- ・情報のアップデート
- ・環境に合わせて適応させる柔軟な実行力
- ・自信を持って決断する

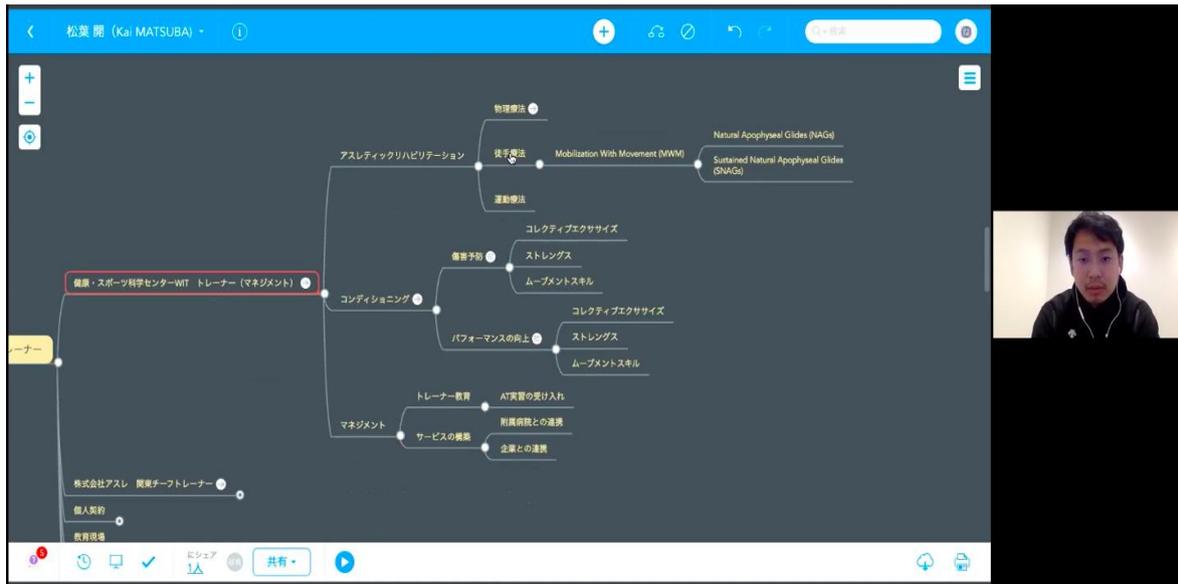
10

講師②：松葉 開 氏

ZERO-ONE 合同会社代表

健康・スポーツ科学センターWIT トレーナー（マネジメント）

その他、契約チーム・個人選手多数日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー



<スポーツ科学部 3 年中禮佑太>

今回スポーツトレーナー実習でアスレティックトレーナーの方にオンラインで講演していただき、実際にスポーツ現場で働くことについて聞くことができた。学生が授業で、「〇〇はこういったものだ」と学んでも、実際の現場に出てみると思っていたものとは違ったというようなギャップが生まれることは、トレーナーに限らずよくあることだ。しかし、今回スポーツ現場で活動されているアスレティックトレーナーの方に直接話を聞くことができ、自分自身が今まで疑問に思っていたアスレティックトレーナーの現状や普段なら聞けないことも講演を通して知ることができた。これから、就職について考えていくことになるがとても参考になった。

<スポーツ科学部 3 年高瀬茉理子>

授業の中で、実際にトレーナーとして現場で働く方の生の声を聴くことができ、トレーナーとして現場で働く明確なイメージができた。普段学校で必要な知識や技能を学ぶことができるのも貴重な時間であるが、実際に現場に出ている方の声を聴く機会は普段の授業の中ではない時間だったため、濃い時間になった。コロナ禍ということもあり、オンラインでの実施であったため対面で現場の方の声を聞く、また聞いたうえで生徒同士の交流が取れるような時間がどうしても取れないことが残念だった。今回、講演の話聞き描いた自身の将来のビジョンの実現に向かって動き出そうと思えた。

保健体育教員採用試験対策プログラム

担当責任者 柿山 哲治

2021年度の教員採用試験1次合格者は、科目履修生も含めて小学校2名、中学校11名、高等学校3名、特別支援学校1名の17名であった。また、2021年8月2日～31日渡って梅田教授、柿山教授、今村准教授で、2次試験対策（含実技）を行い、2次試験合格者は長崎県小学校2名、福岡市中学校3名、福岡県中学校2名、広島県中学校1名の8名であり、科目履修生で北九州市特別支援学校1名の合格であった。なお、科目等履修生を除く8名は全員保健体育教員コースであった。

今年度もコロナ禍のため、昨年度に引き続き採用試験内容の変更があり、福岡県の一次試験で課されていた集団討論はなく、実技試験は二次試験で課されるようになった。実技指導においては、先生方に指導いただき、学部教員がサポートして下さっている。

<プログラム内容>

令和4年度教員採用試験（令和3年7月～実施）直前対策の実施

①一次試験対策（筆記・実技・面接等の指導も含む） 5月6日・11月3日 模擬試験の実施

②二次試験対策（一次試験合格予定者を対象）7月末～8月末実施

*臨時休校期間や遠隔授業期間においても、学部長の許可を得て実施

現役教員の講話・専門家実技指導

・現役教員（当学部卒業生を含む）より、採用までの対策および教師生活等の講話

4月12日（月）5限	山地貴博先生<宮若市立宮若東中学校 教頭>
4月19日（月）5限	古賀千絵先生<福岡県教育庁教育振興部社会教育課主任 社会教育主事>
7月6日（火）3限	竹原 誠先生（福津市立福間中学校 校長）
7月20日（火）1限	中田雅子先生（福岡県立筑紫丘高等学校 養護教諭・元特別支援学校校長）
7月28日（火）1限	藤崎厚志先生（福岡県体育研究所 指導主事）
7月28日（火）3限	山本秀史先生（福岡県立講倫館高等学校 校長）
12月6日（月）5限	藤崎厚志先生<福岡県体育研究所 指導主事>

*月曜5限は、教育実習事前事後指導で開催

・採用試験実技対策のための指導

7月末～8月中旬	器械運動（田口教授、佐野助教、大坪助教）、陸上競技（梅田教授）、水泳（道下准教授、金川助手）、柔道（坂本准教授）、ダンス（今村准教授）
----------	---------------------------------------------------------------------

教員採用受験情報集約と報告資料の作成

- ・受験者（4年生）から受験情報を集約し、合格者の報告会を教職関連授業にて実施
- ・今後の参考資料として、報告媒体及び、模擬授業・実技試験の動画を作成

<2020年度 公立学校教員試験合格者>

西田智哉、安河内健人、岩下梨花（福岡市中学校）、山本千尋、稲垣竣介（福岡県中学校）、山本ももか（広島県中学校）、大谷頼威、中島泰志（長崎県小学校）南里祐萌加（北九州市特別支援学校）*

*科目履修生

合格者レポート

<スポーツ科学科4年 山本千尋（福岡県中学校）>

私は、3年生の夏から教員採用試験に向けて本格的な勉強に取り組み始めました。まず配点の高い専門教養を、その後に一般・教職教養に取り掛かりました。問題を解く際には実際の試験時間を想定して時間を計り、自分の苦手な所を明確にし、一度間違えた問題のチェックをして重点的に解きました。私は陸上競技部に所属していたので十分な勉強時間を確保することは困難でした。しかし、空きコマや夏・春休みなどの長期休みの期間を活用して、1日3～10時間程度は毎日継続して取り組みました。私の場合は、一番集中できる環境が図書館でした。皆さんも勉強スタイル、集中できる環境づくりやモチベーションの上げ方など自分に合うものを見つけて頑張ってください。



教員コースでは、学校現場の先生の講和や模擬授業、筆記・面接対策などとても実践的な内容で充実しているので、本気で教員を目指そうと思う人には教員コースをおすすめします。残された大学生活の時間を有効に活用して、「夢」に向かって頑張ってください。応援しています。

<健康運動科学科4年 中島泰志（長崎県小学校）>

「私も学校現場で働きたい！」そう強く思ったのは、3年生の秋から何気なく始めた福岡市学生サポーターがきっかけでした。それまでは、漠然とした意識で、教職の授業や採用試験対策に取り組んでいました。しかし、学生サポーターとして実際の学校現場に関わり、教師の魅力に気づくことができました。3年生の秋にはこれまで続けてきた硬式野球に区切りをつけ、学生サポーターと採用試験対策漬けの日々を送りました。単に知識を身に付けるだけでなく、学校現場での先生方や子どもたちの様子を注意深く観察することで、実践力と知識を関連付けながら身に付けることが出来ました。また、日々変化する子どもたちを通して教職の魅力を感じ、高いモチベーションで勉強に励むことが出来ました。スポーツ科学部や教員コースの先生方の力を借り、実技試験対策や面接・小論文にも力を入れて取り組みました。特に実技試験や人物試験は、繰り返し何度も練習し、どの分野にも対応できるようにしておくことが大切だと思います。積極的に先生方に面接練習をお願いしたり、教員コースの仲間たちと教育時事について質問しあったり、力をつけていきました。採用試験の勉強はもちろん、大学生活での経験は何事もその後の生活やその人の人間味に繋がると思います。どんなことにも積極的にチャレンジする姿勢を持って頑張ってください。



健康運動指導者試験対策プログラム

担当責任者 道下 竜馬

本プログラムは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士および健康運動実践指導者の資格取得を目指す学生を対象に、下記日程で実技試験および筆記試験対策を健康運動指導演習の授業内で実施した。健康運動実践指導者の実技試験指導については、特別講師として権藤 露氏（スタジオオパレディン；健康運動指導士）をお願いした。なお、本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、筆記試験対策は対面授業に加えてオンライン授業を併用しながら実施した。

本プログラムの成果として、令和3年度健康運動実践指導者認定試験には3年次生10名、4年次生1名が受験し、8名が合格した（全体の合格率：63.3%）。第148回健康運動指導士認定試験には4年次生7名が受験し、5名が合格した（全体の合格率：73.7%）。

<実施日程>

令和3年11月1日～11月22日：実技試験対策講座

令和3年9月20日～10月25日：健康運動指導士筆記試験対策講座

合格者レポート

<健康運動科学科4年 木下滉大（令和3年度健康運動指導士合格）>

本校の健康運動指導士試験対策プログラムを受講したことで、健康運動指導士の資格を取得することができました。本プログラムでは、単元ごとに専門の先生方から学ぶことと模擬試験を実施することで、単元のポイントを抑えるだけでなく、自分の理解できていない内容を把握することができました。自分が理解できていない内容、苦手とする分野を克服することで、試験当日には自信をもって臨むことができました。今後は本プログラムで学んだことを活かし、我が国の健康づくり運動に貢献できる指導者を目指していきます。



<健康運動科学科3年 知念きらり（令和3年度健康運動実践指導者合格）>

本校の健康運動指導者試験対策プログラムを受講したことで、健康運動実践指導者の資格を取得することができました。筆記試験対策では、単元ごとに詳しい内容を専門の先生から学ぶことができ、模擬テストを行うことで自分の現状の理解度を知れたため、効率よく試験対策をすることができました。実技試験対策では、実際にレッスンをされている外部の先生や、資格取得をされた先輩方から直接ご指導をしていただき、それをもとに友達とお互いに指摘し合いながら練習したことが自信となり、試験に臨むことが出来たと思います。今後は、このプログラムで学んだことを活かしていくとともに、健康に携わる人としてさらなる知識を身につけていきたいです。



キャリア教育プログラム

担当責任者 坂本 道人

今年度のステップアップセミナーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に細心の注意をはらい、対面形式で授業を実施した。授業の形態については、受講生を学科別で 2 教室に分け、各教室で同一の教材を視聴する方法と、講師の配信用教室を別にもう一部屋確保し、そこから 2 教室に生配信する方法の 2 パターンで実施した。内容については、昨年度と同様に、株式会社リアセック社の PROG テストによる自己診断をはじめ、現任教員や福岡トヨタ自動車株式会社、ミズノ株式会社など企業で活躍する学部卒業生に協力を仰ぎ、在学生に将来を意識させる動機づけの充実を図った。さらには、昨年度に引き続き大学スポーツ協会 (UNIVAS) ならびに株式会社マイナビと正課内授業で連携をはかり、両者によって共同開発された「UNIVAS デュアルキャリアプログラム」を今年度においても講義内容に採用した。

本授業の目的は、次年度から就職活動をスタートする 2 年次生に、今何を考え準備しておくべきかを考えさせることにある。今年度を振り返ってみると、本授業は様々なワークや身近な経験者の体験談に触れることが最大の強みであり、変則的なかたちではあったが、今年度のような対面形式での実施が理想であると改めて実感した。

最後に、今年度も本講座は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大への懸念を払拭できない状況でのスタートとなったが、多くの関係各位のご理解とご協力のお陰により、充実した講義内容・質を確保することができた。ご協力を賜った関係各位に心よりお礼申し上げます。

講師一覧

第 1 回	9 月 30 日	: ガイダンス
第 2 回	10 月 7 日	: PROG テスト(株式会社リアセック)
第 3 回	10 月 14 日	: 本学の就職・進路支援の実際 (就職進路支援センター)
第 4 回	10 月 21 日	: 首藤 圭祐 氏(令和 2 年度卒:福岡トヨタ自動車株式会社)
第 5 回	10 月 28 日	: 倉本 昂洋 氏(令和 3 年度卒: 名古屋市立郷ノ浦中学校)
第 6 回	11 月 4 日	: PROG テストフォローアップセミナー(株式会社リアセック)
第 7 回	11 月 11 日	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(主体性)
第 8 回	11 月 18 日	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(挑戦し続ける力)
第 9 回	11 月 25 日	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(セルフコントロール)
第 10 回	12 月 2 日	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム(信頼関係)
第 11 回	12 月 9 日	: 外田 安堂 氏(令和元年度卒:ミズノ株式会社)

- 第12回 12月16日 : 現役学生による講義
GS180034 山本 千尋 氏(福岡県中学校教員採用)
GS180174 河野 龍人 氏(株式会社ゼンリン)
- 第13回 12月23日 : 就職活動をどのように取り組むのか？(就職進路支援センター)
- 第14回 1月6日 : まとめ

受講者レポート

第3回(10月14日講師)：假野陽介(キャリアセンター)

今回の講義を聞いて、やはり就職に対して考えが甘いと実感したのと、どうしても名詞で仕事を考えてしまっていると思いました。〇〇がしたい。という仕事はどうゆう働きがいがある、どうなることが自分は好きなのか、他に何か結びつけられないのかなどを考えてみることでより自分の理想の就職活動を行えると思いました。まずはもっと自分を知り、どういう働き方が良いのか、自分はどのような強みがあるのかなどを明確にしたいと思いました。(GH 男子)

第4回(10月21日講師)：首藤圭祐氏(令和2年度卒；福岡トヨタ自動車株式会社)

やりたいことが決まっていなくても、主軸として「感謝される仕事がしたい」という思いがあったからこそ入社できたと思う。私は自身の専門種目である陸上長距離の監督になりたいと言う思いから教員を志望しているが、一つのことだけに執着するのではなく、いろいろな説明会に行って自分にもっと合ったものはないのかと探す努力と柔軟さを持って行動しようと思った。また、活きたこととして部活動を取り上げており、一つの目標に向かって努力するという事は私自身もそういった力はある方だと思うので、部活動をもっと活かせるように日々の活動に力を入れていきたい。最後に、沢山の人と出会ったことを活きたことと挙げていて、コロナの影響でなかなか人と接する機会も少ないが、大学生という利点を生かして人脈作りにも励んでいきたい。(GS 男子)

第5回（10月28日講師）：倉本昂洋氏（令和3年度卒；吉野市立郷ノ浦中学校）

私は将来的に就職をしたいと考えているため、今回の講義は関係ないことだ、と正直思っていた。しかし、話を聞くと社会人にとって大切なことがたくさん述べられていて、参考になる話ばかりであった。「人は真似ることから始まる」というように、成功している人には理由があるので、そのスキルを真似ることから始めようと思った。採用試験の勉強量がとても多くて驚いた。現役合格を目指す友人はこれくらいの勉強量をこなさないと合格できないのかと思った。最後に述べられたように、将来についてたくさん悩んでみようと思った。今自分が考えている未来は本当に望んでいるものなのか、安定を求めているか、選択したあとに後悔のないようにしたいと思った。私も難しい道を選択して頑張ってみようと思った。（GH 女子）

第7～10回（11月4日～12月2日講師）：UNIVAS デュアルキャリアプログラム）

今回の講義では、信頼関係とリーダーシップについて学びました。信頼関係というのは、徐々に出来る関係で、良い信頼関係を作り上げるためには日頃からコミュニケーションをとる事が重要です。そのため、まずは名前を覚えたり呼んだりすることから始めることが大切だと知りました。そして、リーダーシップですがリーダーシップをとる人間になるためには、周りを見る力などが必要だと思います。また、まとめる力も必要だと思うので、やはりコミュニケーション能力が高い人がリーダーシップをとることが多いと思いました。（GS 女子）

第11回（12月9日講師）：外田晏堂氏（令和元年度卒；ミズノ株式会社）

今回の講義で大切だと思うことは、微差が大差を産むということであった。競技スポーツでも勉強でも、大きな成功は何もかも小さな取り組みが積み重なって起こっているものだった。今から自分に出来ることとしては毎日なんでもいいから授業のプリントに目を通す、何か小さな目標を持つ、企業の名前を知ることが大切だった。また毎日小さな幸せ(楽しみを持つことも人生において大切なことである)と思った。自分でしか未来は切り開けないので自分で自分の人生を豊かにしたいと思った。（GS 男子）

令和3年度 成果一覧

団体の部

<硬式野球部>

第70回全日本大学野球選手権記念大会 第3位

<卓球部>

第90回全日本大学総合卓球選手権大会 団体 男子の部 第3位

<ソフトボール部>

第56回全日本大学男子ソフトボール大会 第2位

<陸上競技部>

第90回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子 4×100mR 日本学生新記録 第1位

<柔道部・女子>

2021年度全日本学生柔道優勝大会 第2位

<モーターボート・水上スキー部>

第66回全日本学生水上スキー選手権大会 男子 団体総合 第2位

全日本学生水上スキー選手権大会新人戦 男子 団体総合 第2位

個人の部

<陸上競技部>

津波 愛樹(GS4) 2021 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子 400mH 第3位

伊藤 彩香(GS1) 2021 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子 100mH 第3位

花谷 そら(GS2) 2021 日本学生陸上競技個人選手権大会 男子 3000mSC 第3位

城戸 優来(GS2) 2021 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子 200m 第3位

上田 百寧(GS3) Denka Athletics Challenge Cup 2021 女子やり投 第1位

第90回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子やり投 第2位

安立 雄斗(GS3) 2021 日本学生陸上競技個人選手権大会 男子走幅跳・三段跳 第2位

2021 日本学生陸上競技個人選手権大会 男子三段跳 第1位

第105回 日本陸上競技選手権大会 男子三段跳 第2位

第90回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子三段跳 第2位

高島 真織子(GS4) 2021 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子三段跳 第1位

日夏 涼香(GS1) 第37回 U20 日本陸上競技選手権大会 女子砲丸投 第3位

アツオビ ジェyson(GS1)	第 37 回 U20 日本陸上競技選手権大会	男子砲丸投	第 1 位
	第 90 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子砲丸投	第 1 位
	U20 男子砲丸投日本最高記録(17m66)		
永島 将貴(GS2)	第 90 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子走高跳	第 2 位
<柔道部>			
中原 爽 (GS4)	2021 年度(女子)37 回全日本体重別選手権大会	78kg 超級	第 2 位

教員採用試験

<小学校>

中島泰志・長崎県(GH4) 大谷頼威・長崎県(GS4)

<中学校>

山本千尋・福岡県(GS4) 稲垣竣介・福岡県(GS4)

岩下梨花・福岡市(GS4) 西田智哉・福岡市(GS4) 安河内健人・福岡市(GS4)

山本ももか・広島県(GS4)

健康運動指導士及び実践受講者認定試験

<健康運動指導士>

・ 148 回認定試験合格者

松本あずみ(GH4) 梶本聖一郎(GH4) 木下滉大(GH4) 碓香菜子(GH4) 三戸佳織子(GH4)

<健康運動実践指導者>

岡希美(GH3) 知念きらり(GH3) 津田 知希(GH3) 上村日向(GH3) 岩尾悠介(GH3) 渡辺大輔(GH3)

城未央(GH3) 佐藤充(GH4)

JATI

森内鉄兵(GS4) 稲垣竣介(GS4) 安河内健人(GS4) 吉尾七海(GS4)

畑田葉月(GS4) 小池杏実(GS3) 中禮佑太(GS3)

令和3年度「福岡大学 学部教育充実予算」
体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書

発行 令和4年 3月
編集 米沢利広 乾真寛 西田智 柿山哲治 道下竜馬
坂本道人 村川誠 今村律子
発行者 福岡大学スポーツ科学部
福岡市城南区七隈8丁目19番1号
092-871-6631 (代表)



<https://www.spo.fukuoka-u.ac.jp/>